

## 「きみまるライブ公演」から



「暑さ寒さも彼岸まで」——異常に暑かった今年の夏も、まさに諺どおり「秋分の日」を境に一気に秋めいてきました。そんな9月22日、地元昭島市の市民会館で「綾小路きみまるライブ公演」が行われました。

さすが“中高年のアイドル”！昭島のシニア世代にも大変な人気で、前売り入場券を手にするのに5時間前から並んだ人もいます。自分も英会話講座や講演の話術の勉強とネタ取材のためと、妻に入場券の確保を頼っておきました。

ところが発売日の発売開始1時間前に行ったところ、大変な行列ができていてとても入場券が手に入る順番にはなかった。すでに売り切れのところ、運よくたまたま居合わせた知人の伝手でやっと2枚の券が手に入った。座席は1300人収容の会場の最後列。それでも入場できただけラッキーだったとする以外にありません。

当日。満席の会場は、氏の例の毒舌が炸裂して大変な盛り上がり。最前列に座った入場者は、「愛されている？その顔で！？」と揶揄されても、むしろそんな声をかけられるのを期待している風情さえもあったのでした。

以下、ライブのさわりをご報告します。お客さんとのやりとりで進んでいくライブを紙面中継していくのは、会場の盛り上がり比べて面白さも半減しかねませんが、それでも私的に面白かった言葉を拾い上げていきますと：

### 「あれから40年！」

(ほとんどが中高年の女性を揶揄した言葉です。でも会場の皆さんはそうのように言われて反対に喜んでいました。意味は解説なしでもよくわかりますよね)

- ✚ 久々のお化粧、夫も後ずさり
  - ✚ 昔は乙女、今は太め、服を脱いだら歳以上
  - ✚ 人生、登りきってもいないのに下り坂
  - ✚ あれから40年、美容院は接骨院に代わっていく
  - ✚ 自転車から乳母車に、乳母車から黒塗りのお車になる
  - ✚ オッパイは枯れるとシッパイになる、なんちゃって
  - ✚ 足が短くても大丈夫、立ったり座ったりが楽だから
  - ✚ 昔はポチャッと可愛かったのが今はペチャっとしている
  - ✚ 新婚の頃“ゴメンネ、今日は危険日なの”・・・あれから40年、今は“毎日が安全日”
- 毒舌が心を癒やす？**
- ✚ 新婚の頃、玄関を出る夫に言いました——「早く帰ってきてね！」 今は疲れ果て家に戻ってきた夫に投げかける——「もう帰ってきたの！」
  - ✚ 退職後は毎日家にいる夫。いないと困るし、いると邪魔。食事を作るのも面倒くさい。



そこで大声で訴える——「なんで1日3回も食べるの!？」

- 夫はどこも行くところがない。いそいそとフラダンスに出かける女房を呼びとめる——「オレの昼飯はどうなってんだ？」



- 今度は、尺八を習いに行くという女房に疑心暗鬼のお父さん——「どこの部屋で何を吹いているか心配だ!」。お父さんもナマの尺八を持っているんですから・・・

- お互いの日記は見ないことに夫婦で決めた。「なのにあなた私のを覗いたでしょう?」「だってお父さんの日記帳にそう書いてあるんだから・・・」



- ゴミ出しに行く女房に、「すぐそこなのに、なんでわざわざ化粧なんてするんだ?!」「だって化粧していないとゴミと間違えられてしまうからよ・・・」

- 「何がおかしいんですか、残念ですあんな顔に笑われて。私だってあなたの顔を見て笑いたいです」

- ヘイケー（閉経）Bのおばあちゃんたち ← AKB48をもじって作った笑話ですが、ちょっとポイントを忘れてしまいました。



真面目な“真実”も語っていました：

- 子供のいない母はいるけれど、母親のいない子供はいない
- いつかは誰でも死ぬ、人間の死亡率は100%だから
- お金は死んだらどこにも持っていけない、生きている間に有効に使うこと
- 私たち（舞台での芸人）の商売はお客様を選べないから・・・

そして：

「人間なんて所詮、おしめで始まりおしめで終わる、だからおしめえ（お終い）だ」



きみまろ 61 歳。“サービス残業”も入れて講演は立ったまま 1 時間 15 分。話し方の向きを変え、年寄りを演ずるために腰を落として舞台を歩く。客席に呼びかけ盛り上げる——50 歳を超えて漸くブレイク。「遅咲き」の売れっ子も長い下積み時代があつての開花・・・氏の生き方そのものにも元気をもらったライブでした。

(これはライブ直後に 3 回にわたってブログに載せた内容に加筆したものです)